

事業継続力強化のための行程



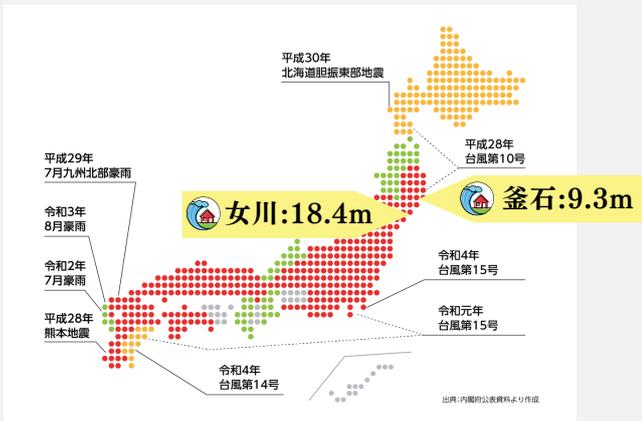
「まさかの時の備え」「まさか」とは、
起こると思わなかった地震や津波、川の氾濫などの自然災害や火災、
そんな時の「備え」を事前に対策しておくことで、
会社を守り、難局を突破しましょう！
そんなお手伝いが、「事業継続力強化計画」です。

「パンフレットをもとのご説明」と「より深く具体的なまさかを例示」します。

1

今後起こりうる自然災害

今後の想定リスクと東日本大震災事例に学ぶ



- 今後起こりうる災害
- 見込まれる被害総額
- 活断層マップ

裏面へ



2

判例の焦点はBCPの訓練です



- 被告である銀行の勝利
- ポイントはBCPマニュアルと訓練を実施していたため

3

事前対策(資金)の有効性について



- 財務診断
- 直接損害
- 間接損害
- 特殊な損害

4

態勢整備をしっかりと整えましょう



5

その他認定のメリット

具体的な補助金・
保険料割引

自然災害による被害と近い未来に発生が見込まれる災害

出典：中小企業庁「平成30年度中小企業等強化対策事業テキスト」 <https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/keizokuryoku.htm>

2018/7：平成30年豪雨(西日本)

2万人超が避難、インフラも停止
総被害額約1兆940億円¹⁾
中小企業被害額4,738億円⁵⁾



出所：国土交通省「平成30年7月豪雨における被害額の概要」

2018/9：北海道胆振東部地震

北海道全域で停電
総被害額約2,320億円³⁾
中小企業被害額42億円⁵⁾



2011/3/11：東日本大震災

日本周辺における観測史上最大の地震
津波による死者1.5万人
被害総額約16兆9000億円⁶⁾

最大約
108兆円

2016/4：熊本地震

震度7が2回発生し、多くの余震が生じた
熊本・大分県での被害額2.4~4.6兆円⁷⁾
中小企業被害額1,600億円⁷⁾

20XX/XX：南海トラフ地震

今後30年以内に80%の確率で
発生が見込まれる
建物等の被害や経済への影響は
最大約220兆円

20XX/XX：首都直下地震

今後30年以内に70%の確率で
発生が見込まれる
建物等の被害や経済への影響は
最大約108兆円

2024年1月15日公表

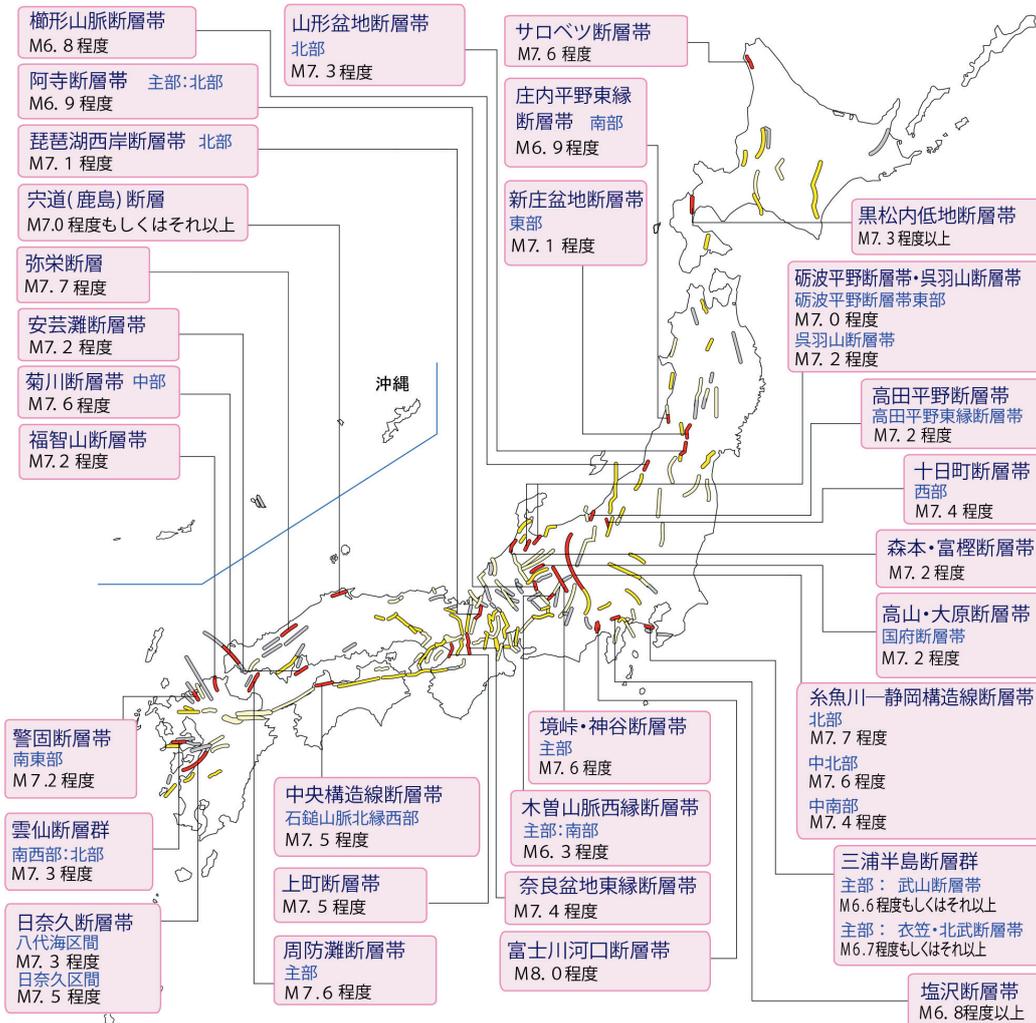
- 凡例： Sランク(高い)：30年以内の地震発生確率が3%以上
 Aランク(やや高い)：30年以内の地震発生確率が0.1~3%未満
 Zランク：30年以内の地震発生確率が0.1%未満
(Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。)
 Xランク：地震発生確率が不明(過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難)

Sランクの活動区間を含む断層帯に吹き出しを付けた。

中央構造線断層帯 — 断層帯の名称
石鎚山脈北縁西部 — 活動区間
M7.5程度 — 地震規模(マグニチュード)

- ・ひとつの断層帯のうち、活動区間によってランクが異なる場合がある。
- ・Sランク、Aランク、Zランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できない。
- ・また、確率値が低いように見えても、決して地震が発生しないことを意味するものではない。
- ・新たな知見が得られた場合には、地震発生確率の値は変わることがある。

ランクの算定基準日は2024年1月1日



○ ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。